

## 教育研究上の目的

人間福祉学科では、人間の幸福な生活を支える社会福祉学を基礎とし、「健康」・「食」・「栄養」という複数の分野と連携しながら、ポジティブでリスク予防的な観点をもって、人間一人一人にとってのQOL（生活の質）向上の追求（追究）を目指して、相談援助・保育・介護に関する知識や技術を実践する能力を備えた人材の養成を、教育研究上の目的とする。

## 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 福祉や健康に関しての知識を広く持ち、「健康で幸福な生活【健幸】」の実現の意味を全人的・社会総合的に探究しつづける能力を有している。
2. 人間の尊厳と基本的人権を尊重し、地域共生社会の実現の重要性を理解し、連携・協働する力を有している。
3. 現代社会や福祉に広く関心を持ち、個人の生活課題や地域社会の課題を的確に捉え、自身の考えを持ち、解決に向けて取り組む力を有している。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

### ①知識・技能

1. 人間の尊厳と基本的人権の尊重を踏まえ、社会福祉の法や制度面についての基本及び支援を必要とする人々への支援に関して、基本的な捉え方を理解し説明することができる。
2. 支援を必要とする人々に対するコミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくり進めていくことができる。
3. 現代社会や福祉の問題やその背景を構造的に捉え、乳幼児から高齢者までの生涯にわたる生活課題や地域課題を見出し、人権尊重の意味を理解したうえで、問題の解決の方向性を科学的根拠をもって説明することができる。

### ②思考力・判断力・表現力

1. 統計や実証研究等の結果について理解し、科学的根拠をもって、援助・支援にあたる論理的思考力を身につけている。
2. 実習・演習教育を含めた他者との関わりから意識的に、また自ら内省する姿勢を持ち、自己覚知を深めることができる。
3. 自分が体験したことや得られた知識を分かりやすく他者に表現し、社会に発信することができる。

### ③主体性・多様性・協働性

1. 主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、解決へ向けた方法の提案や行動につながることのできる専門性と倫理を身につけている。
2. お互いに自身の考えを伝えあい、多様な価値観や立場を認めながら、協働に向けて、自らの考えや集団の考えを高め発展させることができる。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という社会福祉学の基本的理念を踏まえて、地域社会・福祉社会形成へむけて自ら参画していくことができる。

---

## 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

---

人間福祉学科では、社会福祉の学びを基礎とし、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ソーシャルワーク専門科目」「介護福祉専門科目」「保育専門科目」、知識・技術の統合を図る「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」「演習・卒業研究」を設ける。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

### 社会福祉基礎科目

1. 社会福祉に関連する主要な法・制度及び、人と社会に関する基礎的知識を修得させる。
2. 社会福祉に関する現状とその課題を構造的に捉え、自分の見解を形成し、客観的かつ論理的に表現できる力を育成する。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重について理解を深め、諸問題に対して批判的見解を持つことができる力を育成する。

### ソーシャルワーク専門科目

1. 社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を体系的に理解させ、相談援助の展開過程に必要な理論や技術を習得させる。
2. 専門的援助関係を形成していくうえで必要な自己覚知を深め、相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得させる。
3. 生活課題や地域課題に対する相談援助の展開過程及び包括的支援について実践的に理解させ、それらを遂行する能力及び協働する力を育成する。
4. 事例分析や先駆的实践を通して、ソーシャルワークのあり方や専門職倫理を理解させ、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し常に目を向け、問題意識を自ら持てる姿勢を身につけさせる。

### 介護福祉専門科目

1. 介護福祉における生活支援を必要とする人に関する理論を理解させ、実践の基本的枠組みを習得させる。
2. 生活支援を必要とする人との信頼関係を構築していくための自己覚知を深め、個別ケアに向けた介護実践への理解を深め実践に汎用できる能力を習得させる。
3. 介護福祉に関する専門的な理論や知識を統合し、他職種と協働のもと多様性を尊重した介護を実践し、地域づくりに寄与できる能力を育成する。

### 保育専門科目

1. 講義やグループワーク等を通して、保育に関する法・制度の概要を理解させ、子どもの最善の利益及び児童の発達に即した保育を展開することができる基本的態度を育成する。
2. 事例検討・グループワーク、実習経験等を通して、他者との関わりから自ら内省する姿勢を持つとともに自己覚知を深め、専門的な理論と実践を統合し、保育を構想する力を育成する。
3. 事例研究、グループワーク、調査研究等を活用して、子どもや子育てを取り巻く現状・課題についてその背景を構造的に捉え、子どもの最善の利益という価値に基づき、解決へ向けた方法の提案や行動につながることのできる専門性と技術を身につけさせる。

### 社会福祉実践科目

1. 学生自身が学習到達目標を設定し、それを達成できるように、主体的に取り組むことができ、また、実習経験や実習後の学習成果を言語化し、一般化・理論化できるまでに理解を深め、他者にプレゼンテーションすることができる能力を習得させる。

2. 「社会福祉基礎科目」及び「ソーシャルワーク・ケアワーク・保育専門科目」によって習得した知識や技術を統合し、実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解したうえで、信頼関係の構築や指導・支援計画の立案や実施、多職種協働、評価方法について、スーパービジョンを行いながら実践的に習得させる。
3. 人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊厳のもと多様な価値観や立場を認めながら、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得させる。

#### 社会福祉展開科目

1. 福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。
2. 多様な価値観を認め合いながら福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。
3. 時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化を踏まえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を涵養させる。

#### 演習・卒業研究

1. 主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高めたり、協働に向けた取組みや地域活動に参画することができる力を涵養させる。
2. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について、適切な研究方法を考え論述することができる力を育成する。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述したものや制作したものの、体験したことを他者や社会に発信・プレゼンテーションする能力を習得させる。

---

## 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

---

人間福祉学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。

1. 人間の尊厳を守り、基本的人権を尊重することができる。
2. 社会福祉に興味を持ち、共感的態度をもって、人を支援することを志向できる。
3. 健康長寿社会の課題に関心を持ち、地域社会と関わりながら、その解決に向け積極的に取り組むことができる。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

#### ①知識・技能

1. 人間の尊厳と基本的人権の尊重を踏まえ、社会福祉の法や制度面についての基本及び支援を必要とする人々への支援に関心を持ち、高校までに必要な基本的知識を有している。
2. 支援を必要とする人々に対するコミュニケーションの重要性を理解し、他者とかわることができる。
3. 乳幼児から高齢者までの生涯にわたる生活課題や地域課題を見出し、人権尊重の重要性を理解している。

#### ②思考力・判断力・表現力

1. 援助・支援にあたる論理的思考力について高校までに必要な基本的知識を有しており、自身の言葉や文章で表現することができる。
2. 他者との関わりから自ら学び、思考する態度・姿勢を有している。
3. 自分が体験したことや得られた知識を分かりやすく他者に表現し、社会に発信しようとする志向性を有している。

#### ③主体性・多様性・協働性

1. 主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、解決へ向けた方法の提案や行動につながることのできる専門性と倫理の重要性を理解しており、志向性を表現することができる。

2. 自身の考えを伝えあい、多様な価値観や立場を認めながら、協働に向けて、自らの考えや集団の考えを高める態度・姿勢を有している。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という社会福祉学の基本的理念を踏まえて、地域社会・福祉社会形成へむけて自ら参画しようとする志向性を有している。